

大川小遺族の佐藤さん 監督映画上映

災後の思い・歩み重ねる

仙台 同世代の語り部と対談

石巻市大川地区出身の会社員佐藤そのみさん(27)は、東京都で監督した映画の上映会「ある春のための上映会」が18日、仙台市太白区文化センター・楽楽ホールであった。東日本震災の語り部を務める若者と佐藤さんの対談もあり、約370人が参加した。

みやぎ生協が主催。震災

の津波で石巻市大川小6年だった妹を亡くした佐藤さんが、2019年に製作した劇映画「春をかさねて」など2本を上映した。

上映後の対談で、佐藤さんは「映画で大川を残したいの思いが強かった。『地域の人が傷つかないか』などと思って上映を封印した時期もあったが、距離を取

って見ることができるようになった」と語った。

東松島市大曲小5年の時に被災し、語り部として活動する東北大学院生の雁部那由多さん(24)は「大川小にどう触れていいか怖さがあったが(作品を見て)自分と変わらない災後を映し、同じ時間軸を歩んできたことを感じた」と話した。



映画について語る佐藤さん(左)と雁部さん